

令和7年度内定者の皆さんへ 理事長ごあいさつ

皆さん、この度は内定誠におめでとうございます。

私共福寿会グループは東京東北部の高齢化の進む地域、下町で在宅医療、地域包括ケアに取り組んでいます。

一昨年には足立区の梅島駅前に176床の福寿会病院を新規開設いたしました。また来年春には、みらいリハビリテーション病院を開設予定です。急性期から慢性期まで8病院、合計800床近くとなります。その他8診療所、3老人保健施設、1特養、グループホーム等約60近くの事業所で、職員数は2千数百名となります。

法人グループ内には介護保険関係のほぼすべてのサービスを持ち、4,000名余りの在宅療養者に訪問医療を提供しています。

日本には、在宅にも取り組む病院も、多少あります。いくつかのクリニックで千名単位の在宅を行う事業体もあります。しかし急性期から慢性期、在宅までを一法人内にしっかり持つ組織は他にありません。日本で唯一無二のものだと自負しております。

今年も100名近くの新入職の皆さんを仲間に迎えることができ大変幸せに思っています。今年の春に入職した諸君もすでに大きな戦力となり、現場で地域の皆様に愛される存在となっています。

これからの10年20年で地域医療の在り方は大きく変わるでしょう。

今までであれば病院で過ごされた重症の方たちも、在宅で過ごされるようになります。

多死の時代を迎え、在宅での看取りも給食に増えていきます。

これを支えていくには聴診器1本だけの訪問診療では十分なものではないでしょう。

病院を核とし自宅のベッドを病床とした手厚い支援体制が必要となります。医療看護介護リハビリ等の密なる連携による高い総合力が求められます。

これから入職される皆さんには病院だけ、老健だけ、在宅訪看だけではなく多くの事業所を経験し、これからの地域包括ケアを支える有能な人材に育ててほしいと願っています。

私共の急性期病院は、年間6,000件を超える救急車の受け入れを行っています。時には血まみれの多発外傷や脳外術後の患者様の看護介護を担当することもあるでしょう。看護部では近隣の大学病院での看護研修も実施しています。

また在宅でガン末期の患者様の体の痛み、心の痛みに寄り添うこともあるでしょう。

自分にできるか不安かもしれません。しかし皆さんの懸命な努力、かいた汗に患者様の心は癒され、ご家族からは感謝の言葉が寄せられるのです。ベテランであっても要領だけ良いなおざりな仕事に心を動かされることはありません。

若く吸収力のある時期にこそ、できるだけ多くの有意義な経験をしていただきたいと願っています。皆さんのその経験がやがて将来の福寿会グループの大きな力となると信じています。

では来年の春、皆さんと共に汗をかけるのを楽しみに待っています。